

	<p>① 各団の活動報告 ② ③ ④</p>		<p>第 29 号 令和 5 年 9 月 ・ 日 編集 ・ 発行 日本ボーイスカウト愛知連盟 尾張東地区 組織拡充委員会 広報部会 編集 ・ 発行 編集責任者 ?? ??</p>
---	------------------------------------	--	---

◇ 「7 月 隊 集 会 は 海 遊 び」

江南第 3 団
カブ隊長 伊藤美沙

7 月 隊 集 会 は 海 遊 び に 行 き ま し た。
水 辺 の プ ロ グ ラ ム 経 験 が 豊 富 な 団 と 合 同 で 行 う こ と で、安 全 面 や 準 備 で フ ォ ロ ー し て 頂 き、海 で の 活 動 が 実 現 し ま し た。
電 車 で の 長 旅 と 蒸 し 暑 さ で、海 岸 に 着 い た 頃 に は ぐ っ た り の ス カ ウ ト。心 配 し ま し た が、水 に 入 れ ば た ち ま ち 元 気！
海 で 泳 ぐ、い か だ を 漕 ぐ、浮 か ぶ 海 藻 に 触 れ る。初 め て 経 験 す る ス カ ウ ト が 多 か っ た で す が、あ っ と い う 間 に コ ツ を 掴 み、ど ん どん 前 に 進 ん で い く よ う な た く ま し さ を 感 じ ま し た。

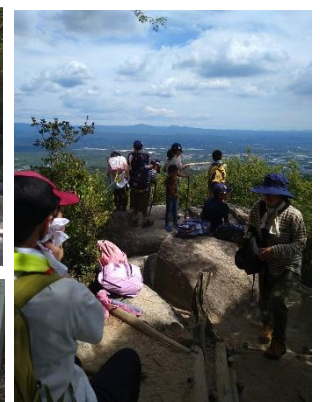


◇ 「猿 投 山 登 山」

日進第 2 団
カブ隊 副長 伊佐治伸庫

2023. 7. 30
指 導 者 4 名 ・ ス カ ウ ト 15 名 ・ 兄 弟 児 1 名 ・ 保 護 者 5 名 の 参 加 で 出 発 で す。
猿 投 神 社 に 集 合 し て、ト イ レ ・ ス ト レ ッ チ ・ 準 備 運 動 を 行 い 出 発。

暑 い 日 々 の 中 や は り 森 林 で は 陽 を 遮 り 日 焼 け の 暑 さ は 無 く 風 が 通 る と 気 持 ち 良 い く ら い で し た。
靴 擦 れ の 痛 み を 訴 え た 数 人 を 対 処 し つ つ 様 子 を 見 な が ら 登 頂 を 目 指 し ま し た。
愚 痴 を 言 い つ つ も 休 憩 を 入 れ な が ら も 水 分 補 給 ・ 塩 タ ブ 補 給 を 行 い つ つ 進 ん で く れ て 2 h 20 分 程 で 奥 の 院 (東 の 宮) に 到 着。
昼 食 を 済 ま せ て 元 気 回 復 し 残 り 20 分 程 で 山 頂 に 登 頂 ！
御 褒 美 の オ ヤ ツ を 堪 能 し た 後 に 下 山 開 始。
帰 り の 方 が 元 気 な の で は ？ と 思 う 勢 い で 下 山 し て き ま し た。
調 子 に 乗 り 段 差 で 足 首 を 挫 く ア ク シ デ ン ト も あ り ま し た が 全 員 無 事 に 下 山 出 来 ま し た。
指 導 者 ・ 保 護 者 の 方 が 翌 日 の 筋 肉 痛 が 心 配 で す。



◇ 「北 向 上 緑 地 ハ イ キ ン グ」

日進第 2 団
ビーバー隊長 和田裕之

2023. 6. 18
こ の 日 は、新 入 隊 者 を 迎 え て 2 回 目 の 活 動

です。スカウトハウスに朝集合し、みんなでワイワイ楽しく歩いて公園内へ入り散策しました。

6月下旬ということもあり、暑かったですが全員無事に最初から最後まで歩ききることが出来ました。



◇ 「25WSJ体験記」

春日井第4団

今年の夏、韓国で開催された第25回世界スカウトジャンボリーに参加した4名のスカウトからの声をお届けします。

○ VS 隊 鈴木希



僕がジャンボリーに行って感じたことはキャンプ場の環境がとても過酷だったことです。

原因はいろいろありますが1番は気温が暑すぎることです。そのうえ日陰すらあまりないので熱中症になる人がかなりいて僕もその中の1人になってしまいました。ちなみにその時の僕の体温はビックリの40.0度です。さすがに「死ぬ！！」と結構本気で思いました。ですがつまらなかったわけでは全然ありません。むしろめっちゃ楽しかったです。コロンビア人の女の子から帽子を貰ったり、エクアドル人の男の子と色々なものを交換して親友なったり。普通だったら絶対にありえないことがいっぱいあってめちゃくちゃ楽しかったです。

○ VS 隊 小川臨太郎

僕が世界スカウトジャンボリーを通して感じたことは、住めば都という言葉は本当なんだと思いました。今回のジャンボリーは会場が暑すぎたり、途中で台風が来て避難することになり救仁寺で2泊3日することになったりなど、今までのジャンボリーではなかったたくさんのアクシデントが起きたことからマイナスのイメージを持っている人がいるかもしれないけど、実際ジャンボリー中は結構快適だったし良い経験も沢山できたので参加して良かったと思います。



○ BS 隊 東瑛汰

僕は 25WSJ に参加し、日本と世界の文化の違いを感じました。例えば日本では、マスクを着用している人が多いですが、世界を見てみると着用していない人がほとんどです。他にも、テントの形の違いや、タクシーの客引きなど、日本とは違うことが多くありました。

なので、日本だけでなく世界にも目を向けてみるとおもしろいと思いました。



私は最初、文化の違いがあるといってもそこまで大差は無いかと思っていました。

しかし 25WSJ を通じて大きく違いがある所とそこまで大差のないところがありました。

大きく差のあるところは全く違ったり日本では常識なことでもその国ではマナー違反であったり驚きました。

他にもいろいろな経験をし、知識を得るとともに班の仲間との絆が深まっていってとても楽しかったです。

このような知識などを知るきっかけを作ってくれた周りの指導者や仲間には感謝しています。

◇ 「発団 55 周年記念夏季キャンプ」

春日井第 4 団

1968 年 12 月に発団した春日井第 4 団は今年発団 55 周年を迎え、8 月 18 日(金)から 20 日(日)にかけて三重県津市のスカイランドおおぼらで記念の夏季キャンプを行いました。

例年は各隊ごとのプログラムと大營火などの団全体プログラムで構成する夏季キャンプですが、発団 55 周年記念行事の今回は初日から 3 日目まで VS を班長とした VS. BS. CS. BVS の縦割班で RS が主体となって計画したプログラムに取り組みました。

1 日前の 8 月 17 日(木)から前入りし、本隊到着に向けてキャンプ場設営に汗を流してくれた RS。そんな RS が主体となって計画したプログラムを紹介します。

○ きもだめし

普段感じることのない暗さを体験してもらうため、ケミカルライトの明かりのみでキャンプサイトを回りました。縦割班の中で隊を超えて 4 人組を作り、RS 演じるお化けの森を歩きました。

○ 場外ラリー (ハイキング)

標高 984.8m の大洞山を目指して、CS や BVS が登れるように道中にクイズを設置しました。頂上ではインスタ風のパネルを準備して写真

○ BS 隊 小川詩織



撮影。みんなで声を掛け合って全員完登できました。

○ 場内ラリー（フルーツポンチづくり）

1班に1つスイカを準備し、みんなでくりぬきました。ゼリーやサイダーを入れて、おいしくいただきました。

○ 場内ラリー（ハンモック体験）

キャンプサイトにある気を利用して、縦割班ごとにハンモックを設置し、キャンプの期間中みんなで楽しみました。

○ 場内ラリー（記念チーフリング作り）

輪切りの木に焼き印と塩ビパイプを取り付け、初団55周年記念チーフリングを作成しました。

○ 大営火

エールマスターやファイアーマスターをRSが担当し、VS班長が事前の定例隊会議で検討してきたスタントを縦割班ごとに発表しました。団全体で楽しめるように工夫されたスタントにみんな大盛り上がり。最後の夜話もRSが担当し、RSの成長も見られた大営火でした。

RS、VS、BS、CS、BVSに指導者や保護者に加え総勢120人のメンバーで開催された発団55周年記念夏季キャンプ。

5年に1度の縦割班活動は、隊を超えたスカウトの交流があり、団全体の結束を強める効果があります。

次の5年、10年に向けて春日井第4団は一丸となって進んでいきます！

《編集者より》

記事投稿ありがとうございました。

今号は本来ならば7月末締切予定でしたが、投稿記事が少なかったため一ヶ月締切延長させてもらいました。

次号も一ヶ月締切延長して11月末に締切予定です、楽しい記事をお待ちしています。

次号担当団はCグループ 犬山7 清州1 北名古屋2 尾張旭1 日進1 小牧2 春日井5です。

